

令和2年度 NPO 法人新治里山「わ」を広げる会 事業報告(総括)

事業内容
<p>1. 新治里山公園 指定管理業務</p> <p>年度当初から新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を開始。最初の緊急事態宣言(令和2年4月7日～5月25日)では、旧奥津邸エリアの屋内閉鎖、つどいの家閉鎖となった。以後、「利用再開のガイドライン」を踏まえて、飲食等の利用制限、消毒作業など対策を徹底した。なお、2回目(令和3年1月7日～3月21日)では1回目のような閉鎖はせず、開園業務を継続した。</p>
<p>2. 新治里山公園運営プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none">・プロジェクト登録メンバー数は61人。・毎月第一日曜日に運営プロジェクト企画会議を6回実施した(6回中止)。・6月のPJ報告会(交流会)、11月の里山秋まつりは中止。・室内開催や、飲食を伴うイベントがすべて中止となった。野外体験のイベントを中心に実施。
<p>3. ウェルカムセンター運営業務</p> <ul style="list-style-type: none">・4月の緊急事態宣言下ではウェルカムセンター休館となったが、公園は開園しているため、エントランスでは最低限の来訪者対応となった。しかし、市民の森での迷惑行為が多発し、マナー啓発に注力した。・「森に親しむ・学ぶ行事の開催」については、市民参加型生きもの調査、学校・WC等連携行事、ほかの森での自然観察会(三保市民の森)、「にいほる自然じかん」の4カテゴリーとして実施した。・新治市民の森保全管理計画定例会(月1回)の事務局を担い、関連団体間調整も対応した。
<p>4. 谷戸田の保全活動(谷戸田を守る会)</p> <ul style="list-style-type: none">・田んぼ11枚で、黒米、もち米、うるち米を作付。農薬・化学肥料を使わず、畝間をあけるなどの工夫を行った。草取りが追い付かずコナギが繁茂した。・田んぼ体験のイベントを実施。田植えは中止となったが、案山子づくりと稲刈りを開催。5組9名。・横浜市森づくりボランティア団体登録等、事務局業務の支援を行った。・助成金申請の支援を行い、実際に獲得することができ、脱穀機や耕運機などをそろえることができた。
<p>5. 新治恵みの里発展会 朝市運営補助業務</p> <ul style="list-style-type: none">・1年間開催されなかった。
<p>6. 梅田川遊水池のかいぼり調査協力</p> <p>12/5 梅田川遊水池のかいぼりについて、緑土木事務所から事前・事後にヒアリングを受けた。また、当日の運営協力を行った。</p>
<p>7. わつなぎパーク事業</p> <p>令和元年度より地域連携事業の一部を「わつなぎパーク事業」として推進し始めたが、去年は新たな事業展開にはつながらず1件のみ。そんな中、青少年みどり遊楽舎や里山会は活動再開となった。</p> <p>※新治市民の森愛護会、一本橋メダカ広場水辺愛護会は、日常的な連携関係にある団体のため、わつなぎパーク事業としていない。</p> <p>◆十日市場地区連携</p> <p>各施設の再開状況や、消毒作業などをメールや電話で情報交換をした。</p> <p>◎ドレッセ十日市場(グリーンバトン倶楽部)</p>

マンション内のコミュニティガーデンの手入れについてレクチャーと苗の提供などを行った。

◆学校連携

- ・十日市場中学校地域交流事業については、例年行われていた夏・冬ボラは中止。
- ・新治小学校 5年生 学校田んぼの支援を5月～11月にかけて実施(ウェルカムセンター関連業務)。
- ・「むかしの暮らし」学習として3校237名の受け入れ(例年の半分。ウェルカムセンター関連業務)。
- ・新治小学校 6年生 「にいほる里山交流センターの仕事体験」6回対応
- ・シュタイナー学園には縄ない・釜炊き等のプログラム提供
- ・そのほか、まちたんけんや森歩きに関することなど情報提供、施設利用等を実施。

8. そのほか

◆助成金3本の獲得

横浜市	市民公益活動緊急支援助成金（谷戸田を守る会；動力機材の導入）	225,000
横浜市	市民公益活動緊急支援助成金（ICT機器の導入）	200,900
真如苑	環境保全・生物保護 市民活動助成（谷戸田を守る会：脱穀機等）	350,000

◆緑区役所 市民の森映像制作協力

緑区内の市民の森・ふれあいの樹林の紹介とともにマナーを伝える20分の動画撮影の協力。